

3.11から未来をひらく会 主催◎第6回 映画と講演会

3月21日◎板橋区立グリーンホール◎190名参加

映画

原発を止めた裁判長 そして原発を止める農家たち

講演

福井地方裁判所元裁判長裁判官
樋口 英明 氏



実際にあった裁判の結果と裁判長への関心が高く、会場は、コロナ禍後では、一番多い参加者で溢れました。ご講演は、元裁判長の樋口英明氏その人です。

樋口英明氏は著書の「私が原発を止めた理由」の中で「第1 原発事故のもたらす被害は極めて甚大。第2 それゆえに原発には高度の安全性が求められる。第3 地震大国日本において原発に高度の安全性があるということは、原発に高度の耐震性があるということ～第4 我が国の原発の耐震性は極めて低い。第5 よって、原発の運転は許されない。」と明解に示されています。



SOE NEWS

No.193

2023年

4月



センスオブアース
市民による自然共生
パンゲア

平成27年度地球温暖化防止活動
環境大臣表彰受賞団体

3月の国会ではまさに原発関連の審議が行われています。東日本大震災と福島原発事故から丸12年、福島原発の收拾がいつ終わるかが不明な中で、日本は「原発にできる限り依存しない、将来、再生エネを主電源にする方向」から、「できるだけ再稼働する方向」に、今年度大きく転換されました。福島原発事故のように環境が破壊される危険はもうないということでしょうか??



《参加者より》 ●福島県いわき市から来られた方「素晴らしい企画でした」 ●練馬区在住の方「福島出身です。3.11の時、初めて原発に注視しました。今後も原発には注視していきます」 ●「ガル（原発の設計耐震基準のこと、東日本大震災は 2,933 ガル）のことがわかったです」 ●「農家の方が取り組んでいるソーラーシェアリングがおもしろい」（ソーラーと農業の兼業）

司会と売店の係は、センスオブアースの東京家政大学・学生スタッフ



樋口氏の著書は完売

お日さまとながよし

こぶし保育園(板橋区)

3月14日

2園の
卒園遠足を

板橋区立
エコポリスセンターで

☑ カガミで写したのがおもしろかった

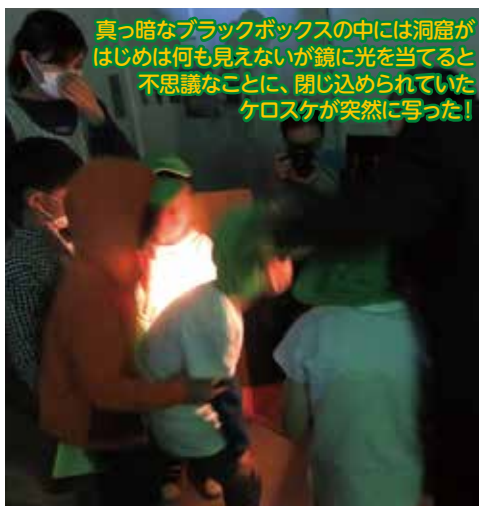
🕒 紙芝居がおもしろかった

🎁 カエルのケロスケを見つけることがおもしろかった

前半はエコポリスセンターの館内学習～緑のカーテン、ソーラーパネル、リサイクルして使っているタイヤや雨水、ビオトープなどを見学～初めて見るものからいっぱい学んだようです。そのあとは、お楽しみプログラムです。

あいにくの曇り空でしたが、室内で、光の反射(懐中電灯使用)を使って自分の絵を楽しむことができました。紙芝居の中で洞窟につかまった、仲間のケロスケを助けに、子どもたち全員が懐中電灯と鏡で、ケロスケを映し出し、助けることができました。

パラフィン紙に描いた絵をかべに懐中電灯で大写し



真っ暗なブラックボックスの中には洞窟がはじめは何も見えないが鏡に光を当てると不思議なことに、閉じ込められていたケロスケが突然に写った!

(左図)のぞいている子どもたちの真剣さ!!

🕒 ケロスケが助けられてよかった 🕒 ケロスケを見つけるのがたのしかった

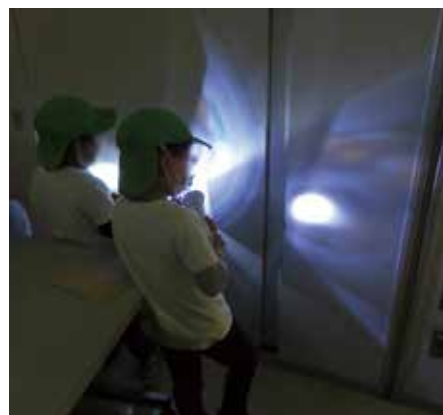
🕒 鏡で絵を写したりしておもしろかった

先生方より「私自身、科学理科が好きで、影絵をお楽しみ会で発表したりしてきた。クラス内だけでもそのような実践もできると気が付いた。ぜひ実践したい」「子どもたちも科学的なことに興味を持ち始めているので、楽しく活動していた。紙芝居も活動内容の中にあり、目で見て理解する2つの取り組みで豊かな内容だった

参観者・板橋区環境政策課環境教育係のみなさんより

「光の屈折・紙芝居・

洞窟たんけんという主体的な授業だった。上手に投影できたときはこちらも幸せな気持ちになれた。子どものチャレンジを見守り続けることが大事だと思った。」「紙芝居でのストーリーの続きは自らが実際に行動、体験することで進行、構成が印象的。発見することが主体的な学習意欲につながっていくのだろうと感じた」



卒園児に励ましのエールをおくる板橋区の参観者



星の女王と夜の女王の対決
～ケロスケの運命は?

センスオブアースの
エネルギー分野の
環境教育プログラムで
楽しく過ごした

風となかよし

つつじ保育園
(板橋区)
3月24日

- 最後に虹が出て、かざぐるまを回した
- フーはかわいそうだった。でも、なかなおりできてよかった(紙芝居)

エコポリスセンターでエコの話で見学を楽しんだ後、みんなで「風となかよし」に取り組みました。子どもたちはお話を落ち着いて聞いています。まもなく小学1年生になる準備ができています。

「どんな風にあったことあるかな？」次々に手が上がり、「冷たい風、涼しい風、押される風、強い風、やさしい風」いろいろな表現で、風とふだん出会っていることに気がきました。さっそく、「風の子がはじめられてしまう話の紙芝居、どんなことが起きたのかな？」興味津々で話を聞きました。

その後、かざぐるま作りと紙トンボ作り。さくらが満開の前野公園へ行って、みなで走り回って、かざぐ



紙芝居「風の子フーのなみだ」

るまを回しました。最後は風の話のまとめ、「風って遊ぶ～、風って生活の役に立つ～」みんなお話をよく聞いてました。**先生方より**「事務所に作ったものを飾っていたため、早くから興味をもっていた。風となかよして何だろうと思っていた子どもたちがあ～こういうことかあと反応していた。先生方のニックネームで子どもたちは早くも打ち解けていた。」「子どもたちが楽しんで取り組める内容で、施設案内から、今回のプログラムの流れがよかった。友だちの意見に耳を傾け共感していた。身近な自然である風というテーマに興味を持ちながら遊んでいた。」



「紙トンボとんでいけ～～」



お話「風って遊ぶ・風って生活の役に立つ・風ってなくならない」

木って、どんな顔をしているのかな？

東京日仏国際学園 (北区西が原)◎環境クラブの活動
3月14日◎赤羽自然公園



好きな木といっしょに記念写真
センスオブアースで活動する絵本作家の渡辺有紀子さんと子どもたち

年度末でお休みする子どもたちも多く、この日の参加者は3人。4時からの短い夕方のクラブ活動でしたが、実質40分でも、飛び回って遊びました。気に入った木を見つけ、木の顔を作りました。そして、みんな同じ木に集中。そのはず、お馬さんみただものね。登れたんだから、最高です。



紙芝居「森と子どものひみつ作戦」を読んでいると、子どもたちは「木が切られるなんてかわいそう」と、見るからに、お話の木たちに同情しています。だって、公園の木を全部切って、建物を建てるという計画を聞いた子どもたちと木の友情物語ですからね。～ある日、公園の木と子どもたちはどこかへ消えたのです。「木を切らないで～」と空から、サキちゃんがさげんでいます。やがて、子どもたちとなかよしの木は、帰ってきます。計画が中止になったから～



紙芝居を読み終えると、「木はたくさんのいいものをくれるから、切ってはだめ」「木がかわいそう」と子どもたちの声。

発行

特定非営利活動法人 センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

東京事務所 東京都板橋区前野町4-8-6 (〒174-0063) phone: 03-3960-6052 fax: 03-3960-6052
e-mail: info@npo-soe.jp url: npo-soe.jp